

そよぐ四月からはどうなりましようか、遊びもがらりと変るかもしれません、気を付けて見ることにいたしましょう。

(大日坂幼稚園)

## 幼稚園教育五十年

### の旅路の感想

林 叔子

私が幼稚園というものの味を知ったのは、十九才の時でした。師範教育を一か年うけて小学校へ奉職、二か年の義務を終えて、再びもとの巣にかえりましたが、そのころの幼稚園の実際が、私に不安をいだかせました。幸に、大正六年四月東京女子高等師範学校保育実習科に入學出来ましたので、専心、幼児教育の勉強にはげみ、故倉橋惣三先生、故安井哲子先生、特別及川ふみ先生には御指導いただきました。修了後現在に至っておりますが、いつも私を引っ張って、支えている、太い、強い三本の綱があります。それは次の綱です。

1 故倉橋先生が私に金言を下さいました。「馬車馬になって進むことだね」と、お

つしゃいました。私の進むべき方向を御指示くださったのだと、ほんとうにありがたく思つて、今もなお、守りつづけております。耳を覆つて、わきみをしないで、周囲のものに気を奪われぬように、物を正しく判断し、しっかり地に足をつけて、的をしつかり見つめて、真実込めて進むようにとのおさとしました。

2 故久留島武彦先生からは、「あなたは、感謝の二字がほんとうにわかつていますか。感謝は、嬉しい時、幸福な時には、誰も感謝するけれども、ほんとうの感謝は、苦しい時、失敗した時、人にわるく言われた時にこそ感謝するのですよ。苦境に立った時、また一勉強だ、磨をかけるのだ、天が与えた試練に勝つことだと、意気を盛り上げ、困難な事情を切り抜けてこそ、人間として生き甲斐があるのですね」と勇気づけられたことでした。

3 実母宇式かんの踏破して来た幼児教育の道をたどつて歩き、更に新しい天地を開拓することが、私のつとめであるという責任感と意欲。  
昨年十二月二日に本園創立五十周年記念

祝典を挙行しました。幸に、明治四十三年七月一日開園当初から現在まで五十周年を重ねた今日もなお健在で、幼児教育の第一線にはたらかせていただいている事は、大きな感激です。はげしい、移り行く社会情勢の中に動きながら、変遷の波に乗つて漕いで来た私立幼稚園経営の苦心、幼児教育、小学校教育の思潮ならびに指導の傾向など、到底僅かな紙面に綴り切れるものではありません。五十年の昔から近代まで、幼稚園の姿は、どのように変遷して来たか、どのように発展して来たか、また進展をばばんでいるものはどんなものか、服装や髪結び方は近代型でも、考え方や指導法において、古い殻を身につけていては、役立たないではないか、かびの生えたもの、さびているものを用いてはいないか、常に磨くことを忘れてはいないかしらなど、さまざま反省と新しい息吹きに燃えるものです。

経営管理についても、教育の内容ならびに指導法においても、時代の思潮につれて次々と変わってきました。保育案のつくり方、指導の傾向など、ならべたてたら、さういげんがありません。長い間歩いて来た幼

児教育の道をふりかえってみる時、その時代には、その時代にふさわしい教育があつて、今日の進んだ文化の新しい時代の教育が生まれて来た事を見のがすことは出来ません。昔は昔、今は今というかも知れませんが、昔から今日までの連がり、歴史というものは、すてがたいものです。

古い殻をいつまでも身につけていては、役に立たないと申しましたが、昔の事の中にも、尊重したい点が数々あります。「古きをたずねて、新しきを知る」ということを味ってみることも興味ありまた参考資料となると思います。

教育の内容を伝授すること、それが幼稚園教育であると思つていような事実を、見ききすることがありますが、それだけではこの大切な時期の望ましい教育の達成は出来ません。私は、今日の幼稚園教育の実状において深く感ずるものがあります。幼児の私たちに訴えている声をきいて、真実の生活の姿を観察して、ほんとうの資料を得て、もつと内因の奥深いものにふれて、人間基本教育の重要任務にはげみたく切実に希うものです。

学校教育法の中の幼稚園となつて教師の

問題やら、教育内容の新傾向に伴う教育課程の研究、つづいて小学校との関連、家庭との連絡など文部省から指針を示されている今日、お互いに、教育の目的、目標の達成を目ざして、都市において、農漁村において熱心になされていきますが、地域社会の啓蒙、理解、認識を高める為の活動には、なお未だしの感があります。遠い将来へ祈りをはせることも大切ですが、日常のたゆまぬ努力こそ効果を生むことになるのです。ことに私立経営においては、設置基準への到達を図りながら、その園のよい環境をつくつていく為には、理論も義務も責任も充分知つていても、その実施に頭をなやますのです。しかし、設立した上は、困難を乗り越えて、第七十七条の目的、第七十八条の目標を達成する為には、適当な環境をつくつて、豊富な経験生活を暮らさせるよう工夫と努力を払いたいものです。住みよい環境、くらしよい環境をつくることこそ自然生活の中に自然によい教育効果が生まれて来るのです。私は牛の歩みに似た歩調ですが、ささやかなりとも私の夢を実現したいと目下進行中です。園庭に桜樹をたくさん植え、つつじ、さぎんか、紅葉その他常

緑樹と落葉樹を植え、花壇には四季折々の花が咲くようにし、夏は緑陰の下で涼風うけて遊ぶ場を考へるよう配慮し、運動機、遊具、水吞場、手洗場、足洗場(兼備えたもの)を適切に設備して、楽しい経験生活の間に体力も増進し、観察的興味も湧くよう運んでいます。また室内には、ラジオ、テレビ(各保育室ごとに)も設備し、学校放送の時間をたのしく、有意義にすごすようにしてあります。今日の場合、こちらから出かけて、飛び込んで行く教育でない間に合わないと思ひます。創意工夫をこらして、機会をとらえ前進するように努めています。

「こだま」と同じような列車が幾つも走る時代ではありませんか。一生懸命新しい発見に取り組んで、幼稚園の世界の開拓に精進したいと思つています。そして、一方には教職員の待遇に意をはらい、両々相まって幼稚園教育の発展を期したく私の感想の一端を述べさせていただきます。

(静岡市・桜花幼稚園)

